

「ふれあい・いきいきサロン」の実態調査に基づく継続への検討

—坂出市の「ふれあい・いきいきサロン」調査を中心に—

岡 崎 昌 枝

I. はじめに

社会福祉協議会による「ふれあい・いきいきサロン」は徒歩圏内での活動範囲において活動を行うことにより、地域住民の関係性が希薄になってきている地域社会のつながりが再構築され、互助関係が生まれる地域組織化活動（全国社会福祉協議会、2000）として全国的に広がりを見せている。地域包括ケアシステムでは「ふれあい・いきいきサロン」を生活支援・介護予防のサービスのひとつとして地域サロンに活用したいと期待している（厚生労働省、2016）。

「ふれあい・いきいきサロン（以下サロン）」は高齢者福祉および地域福祉の分野において、多くの研究や実践事例が報告され、この活動によって高齢者は、社会参加、生きがいの創出になることが明らかにされている（高野ら、2007；森、2008；玲玲、2012；豊田、2008）。「サロン」は各市町村の小地域において月1回～週2回程度、運営されている。この活動が、自治会程度の小地域で継続して開催されれば、地域組織化につながり高齢者の社会参加の場、閉じこもり予防ひいては介護予防効果をもたらす。しかし、「サロン」が様々な理由によって休止となった場合、高齢者の社会参加、社会交流の場は減少してしまう。サロンの参加者および担い手となるスタッフが継続できるサロン運営を行うための要因と休止に至った要因を明らかにしていく。これに

より、「ふれあい・いきいきサロン」が効果的に運営されることになり、開催が難しくなったサロンについても再始動へと導くことができるのではないかと考える。

II. 先行文献の整理と分析枠組み

サロンの継続性について山村靖彦（2013）は、ソーシャル・キャピタルに着目した研究を行い、ソーシャル・キャピタルの成熟度と自主運営がサロン継続に影響を及ぼし、加えて参加率の減少による運営支援の必要性を指摘している。高野和良・坂本俊彦・大倉福恵（2007）は、2年を超える継続によって近隣の交流が増え身体的精神的効果も高まることから、月1回以上の開催は必要だと指摘し関係機関との連携・協働を述べている。加えて都市部と農村部ではサロンの性格や活動支援のあり方が違ってくると指摘している。サロンは、長期の継続によって高齢者の社会交流と心身の健康維持が期待される一方で、参加率の減少が懸念されている。サロンの設立と継続は地域社会の醸成と地域社会を取り巻く関係性が密接に関わっていることを指摘しているが、地域社会の類型化とサロンの設立と継続の関係性についてはいまだ分析されていない。

サロンの実態を調査した中村久美（2009）は、後期高齢者、参加目的を明確にもつものがサロン活動に定着する傾向がある一方で、運営者と参加者の関係性や開催場所によってその定着度には差異がみられることを指摘している。真継和子ら（2013）はサロン参加年齢が65歳以上で継続参加者が平均年齢75.4歳と高齢化しているものの、新規加入者の増加傾向がみられ、高齢化したサロンにおいて参加後1

平成29年11月20日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)5591 FAX 0877(49)5252
Email mokazaki@kjc.ac.jp

年が経過した時期から積極的な役割を担う参加者も現れてくる。一方で長期継続によるリーダーの高齢化問題、拠点となる開催場所が確保できない、回数が増えることによって活動内容がマンネリ化してくることなど課題も多い。これらの課題は、地域社会の特性による差異が考えられるが、その地域特性についての先行研究はみられない。

サロン参加者側からの評価を示した森常人(2014)は、ひとり暮らし高齢者がサロンに参加することにより、地域社会との交流につながるなど一定の成果がみられていると述べている。豊田保(2009)は、新潟市北区のサロン参加者に面接調査を行い、70歳以上で高齢者のみの世帯よりもその他の世帯の者が定期的に参加し、近隣関係・友人関係も良好、家族内での役割を持つ者が参加する傾向を指摘した。サロン参加者の傾向として、自らの生活状況に不安をもつ高齢者もしくは、社会関係や家庭状況などが安定し余裕をもつ高齢者の参加がみられるのではないかと推察する。サロンの設立には地縁関係・友人関係などが醸成されている地域社会であるか、地域社会の類型についても検討する必要がある。

サロンが社会参加の場と住民組織の場としての効果があると高野ら(2007)は指摘している。参加の視点からみるとサロン参加によって交流はみられるものの、継続していくにつれ参加者が固定化し活動プログラムがマンネリ化すること、担い手の視点から後継者が育成されにくいこと、地域住民の視点から福祉意識が醸成されるが子どもも包含した活動に至っていないなどの課題が挙げられている。この調査で述べられているようにサロン運営の課題を明らかにし、その対策を講じなければ、サロン活動は設立しても継続することが難しくなると考える。

これらの先行研究の整理から、地域社会の類型とサロンの設立要件(岡崎, 2016)を用いて各サロン、社会福祉協議会からの聴き取り調査から分析する。分析の枠組みは、地域社会の類型を過疎地域、混住地域、ニュータウン地域に分類する。サロンの設立要件はリーダー、地縁関係、拠点の3要件とする。

Ⅲ. 調査方法

Ⅲ-1. 調査対象者

活発な活動を行っている「ふれあい・いきいき」サロン(以下サロン)として坂出市の8サロンと坂出市と類似した3市町のサロンについて、インタビューを中心とした質的調査分析を行った。香川県坂出市において2014年から2016年の間に活動が休止になった8サロンについては「サロン」調査資料と地域アセスメントによる分析を行った。

Ⅲ-2. 調査内容

- ①活発な活動が行われている「サロン」:聴き取り調査(2015)による分析。
- ②活動が休止した「サロン」:調査資料(2014)と「サロン」報告書(2016)から分析。

調査内容は、各「サロン」の地域類型、「サロン」ごとにリーダーの変更回数と活動基盤、地縁関係では活動内容に地域行事が含まれているか、他の自治会からのメンバー加入があるか、拠点となる施設の保有状況である。

Ⅲ-3. 調査期間

2014年6月～2016年6月

Ⅲ-4. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守して実施した。調査を行うにあたり、坂出社会福祉協議会をはじめとした各社会福祉協議会、「ふれあい・いきいきサロン」参加者にはインタビューの主旨と内容について口頭で説明し了承を得ている。また、活動が休止したサロンについては、調査地区および関係者に不利益が生じないよう個人情報特定されないように分析を行った。

Ⅳ. 事例紹介

Ⅳ-1. 活発な活動を行っているサロン

坂出市は活動回数が多いサロン、ニュータウン地域に設立されたサロン、過疎地域に複数のサロン運営を行っている島嶼部のサロン、老人会のペタンクから生まれたサロンにインタビューを依頼をした。

坂出市以外の愛媛県今治市、岡山県笠岡市、兵庫県多可町のサロンは、各社会福祉協議会から紹介されたサロンを観察、インタビュー調査を行った。聴き取った内容については斜字にて示している。

IV-1-1. 坂出市中央校区西大浜南 せいざんかい 青山会

リーダーの変更は有り。参加者21人（63歳～92歳）、男性11名、女性10名。参加者は少しずつ減少してきている。開催回数は年26回である。活動内容はペタンク、花見、ツアー、園芸、講習会、バーベキューなどを行っている。主な活動は西大浜自治会館で行っているが、西大浜公園やファミリーレストランなどでも実施している。メンバーは複数の自治会からも参加している。

1丁268人（102世帯）である。市の西部の沿岸地域に瀬戸大橋開通に合わせて広がった新興住宅地域である。市内の立ち退き等で転居してきた住民と、新規住民が暮らす地域である。この周辺地域にはこのサロンしか設立されていない。

- ・自治会は昭和62年からできた。瀬戸大橋が63年にできる1年前。昭和60年に引っ越ししてきた。（居住年数30年）。瀬戸大橋の架橋予定地であった緑町の40軒が立ち退きになり、こちらにきた。田尾坂からも何軒かきた。鉄道の高架になるにあたり市の中心部から、御供所のAさんたち、橋の関係でいくつかの集落から集団できたことで、以前から顔なじみの人もいたが、異動によって家々は離れることになった。新興住宅地なので隣の人がわからないのでは困るという思いがあって設立することにした。
- ・会費を集めて自費で運営しようと思ったが、社協の人が「足りないだろう」ということで助成金制度を活用することにした。福祉バス（年2回なら安価に借りれる）を利用して外出するようになると参加者が増えた。
- ・自治会館が3年程度前にきれいになった。公園や自治会館を利用するにはいろいろあった。自治会館は、立ち退きになった地域の集会場を西大浜に持ってきたが、再度利用するには、資金や管理元など問題があった。改修して使いやす

表1 活発な活動を行っているサロンの地域類型と設立要件（2016年）

	地域類型	継続年数	リーダー		地縁関係		拠点
			変更	基盤となる組織	地域の行事	他の自治会メンバー	
坂出市西大浜	ニュータウン	9年	有り	自治会長	公園の整備、ペタンク	なし	自治会館
坂出市神谷	過疎	6年	有り	自治会長	神社周辺の清掃	なし	神社
坂出市与島	過疎	9年	有り	市の囑託職員	茶話会、折り紙、食事	あり	出張所（公）
坂出市王越	過疎	4年	無し	老人会	ペタンク、年中行事、公園清掃	あり	公園
坂出市連尺	混住地	3年	有り	NPO	レクリエーション、季節の行事	あり	自治会館（自）
今治市玉川支部 鈍川地区	過疎	7年	無し	JA	年中行事、農業、地域住民の講話	なし	JA跡地
笠岡市大井地区 小平井馬橋	ニュータウン	2年	無し	福祉委員	茶話会、季節の行事、食事	なし	集会所（自）
多可町坂本	混住地	不明	無し	民生委員	レクリエーション、茶話会	なし	集会所（自）

拠点：自治体所有（公）、単一自治会所有（自）として表記

くなった。

- ・活動内容は、ペタンク、市からの紹介による講話、参加者から歴史の講話、手芸やレクリエーションなども行っている。福祉バスを利用して外出（蒜山、後楽園など）なども行っている。

IV-1-2. 坂出市神谷町さつき会サロン

リーダーの変更は毎年あり。参加者17名、男性のみ。参加者は毎年少しずつ新しいメンバーが入っている。神谷神社の氏子当番と自治会長、住民自治組織のメンバーが毎年当番制で参加している。月2回の開催し、その活動内容は神谷神社の参道のサツキの水やり、剪定、近辺の草そり、休憩所の管理、トイレの掃除が中心であるが、近隣の神社のラジオ体操や盆踊りにも参加している。

この地区は市の東部の農業地域、神谷町490人（165世帯）であり、農業地域ではあるものの、農業地を大規模経営農園に委託している者が多く農業従事者は少ない。町内には4サロンがある。

- ・神谷神社は国宝神社であることから、その参道を整備することにした。宝くじの助成金でサツキの寄贈を受けることができたが、苗木の育成と剪定などの管理に苦慮していた。仲間づくり活動¹⁾は、地域の活動が入っていて、いろいろな活動をしていることがルールとして挙げられていたので、このサツキの管理を含んだ活動は当てはめられるのではないかと考えた。参加者は、神社の宮総代、当屋、自治会が順番制とした。これによって地域の仲間で神社周辺の環境美化と地域の組織を作ることができた。
- ・この地区ではほかにも第2金曜日に閉じこもり高齢者のための居場所づくりサロンが行われている。地域包括支援センターの作業療法士さんが公民館で活動を行っている。15名くらいが参加していて、神谷地区の女性のサロンの人も参加している。閉じこもり解消には公民館がもっと自由に使えたら出てくることができやすくなる気がする。
- ・以前は農業地であり、今も田畑は多くあるが、ほとんどの耕地は、同じ地区内の大規模農業経営者に任せているため農業従事者はほとんどい

ない。地域の交流も少なくなった。地域の交流は地元の神社と寺の行事を中心に行っている。地区で行われている運動にも参加している。若者はソフトバレーやソフトボール、高齢者はペタンクなどに参加している。

IV-1-3. 坂出市与島町サロン

リーダーの変更は2回あり。サロン設立の際のリーダーは、現在参加者としてサロンに参加している。参加者15名、男性2名、女性13名。参加者は少しずつ減少しているため、年齢に関係なく、若い人、夫婦世帯にも声をかけている。月1回開催しており、活動内容は観音様の前掛け、悪徳商法のDVD鑑賞、ゴミ入れづくり、図書館活動、地域包括支援センターの話、花作り、忘年会、ハワイアンダンスなどを行っている。

瀬戸内海島嶼部にある地区で与島パーキングがある。人口は減少しており与島町95人（59世帯）と非常に少ない。瀬戸大橋開通によって主な産業だった運輸業と採石業が衰退したうえ、観光業もレジャー施設の撤退、加えて小学校の閉鎖により若年層の住民も減少している地域である。

- ・サロンでは昼食を毎回提供している。瀬戸大橋の架橋下となった島で人口減少が著しいことから単一自治会で開催することが困難である。町内（島）全域の高齢者の居場所づくりとして、2サロンが同じ場所で月1回ずつ、月2回開催している。活動内容や参加者の関係性などもあり、サロンの参加メンバーは異なっている。島の元住民がサロンの際には坂出市からバスに乗って参加してきている。
- ・サロンは島の出張所で開設されている。地域包括支援センターが閉じこもり高齢者の居場所づくりサロンとして同じ場所で開設し作業療法士や保健師が関わってくれている。何度かの開催を経て「ふれあい・いきいきサロン」への移行が行える高齢者には参加を試みてもらっている。

IV-1-4. 坂出市王越町乃生浜焼山サロン

リーダーの変更はなし。参加者19名であるが、常

時16名程度、すべて男性（63歳～80歳）である。一緒に遊んだ幼馴染であることから、メンバーは固定的である。拠点は乃生公園だが、保健センターや自治会内の集会場を利用する場合もある。

このサロンは王越町1,003人（435世帯）にある。王越町は乃生と木沢に2分され、人口も同様に2分している。このうちこのサロンのある乃生浜焼山自治会は60世帯である。王越町は市の東部の沿岸部であるが、坂出市の他の地域とは離れている。地勢による人口流出が留まらず、小学校閉鎖となった。これにより若年層も市内に転居し高齢者世帯が目立つ。沿岸部は漁業、山間部は農業従事者がいるが、農地管理ができていない耕地も目立ってきている。

- ・ 設立の経緯は地区の連合自治会長からペタンクを仲間づくりでしませんかといわれて、ペタンクの仲間を中心に開設したが、仲間づくりにはペタンクメンバー以外にもいる。
- ・ 活動内容は、ペタンクがメインになっているが、あくまでもペタンクは老人会の活動であること、仲間づくりは1つの活動に特化してはいけなから、いろいろな活動を入れている。しめ縄づくり、生活道路や公園の掃除などを行っている。

IV-1-5. 坂出市川津町連尺サロン

リーダー変更は3回あり。参加者は35人。その内訳は男性12人、女性23人である。少しずつ参加メンバーは減少している。年19回開催しており月2回程度である。活動内容は紙芝居、ペタンク、カラオケ、掃除を行っている。

このサロンのある川津町は人口5,684人（2,139世帯）である。市の南部に位置し、農業と住宅の混住地域である。農業地は他の住民の転居が見られないが、山間部などに社員寮や建売住宅地が増加しており、町全体に新規住民が増えてきている。サロンは16サロンあり、各サロンは、自治会ごとに集会場を所有している。連合自治会と地区社協、婦人会、老人会などが合同の連絡協議会を行っており、緊密な連携が行われている町（地区）である。町内はNPO法人や町内の高齢者施設と協働体制がとられている。

- ・ 2016年度から「NPO法人坂出のきずな」による常設型サロンにしたことから、開催回数が増加している。活動内容は健康チェック、茶話会、食事の提供などを中心に、子どもとの交流、季節行事なども開催されている。

IV-1-6. 今治市鈍川のサロン

リーダー変更はなし。参加者は34～35人、男性の参加者が多く（半数以上）、メンバーは固定化している。開催回数は2ヶ月に1回（偶数月）、年6回の開催である。活動内容は、10月玉川町のバンド演奏（元町長を含む高齢者のバンド）、12月しめ縄飾り、2月八十八か所のお寺の住職による講話、4月春野菜の栽培講習、6月稲の消毒、栽培方法を行っている。毎回の活動前には二宮金次郎の歌をみんなで歌い、活動後には昼食会を行っている。8月は盆休みとしている。このほかにも小学校跡地で青空サロンと称してゲートボールを行っている。

このサロンのある玉川町は人口5,287人（2,202世帯）、鈍川地区413人（179世帯）である。鈍川地区は今治市の内陸部にある中山間地域であり、7集落で構成されており農業従事者が多い。以前、地区内にあったJA鈍川のスーパーが閉鎖となり生活を支えるため生活物資の販売やふれあい茶屋も開催している。

- ・ 山間部なので歩いてくのが困る参加者は、自家用車、電動自転車、家族やスタッフの送迎でサロンにくる。
- ・ 設立の経緯として、立ち上げの際に15人が2万ずつ出資した。スタッフは家から持ち寄り、市役所が50万の助成金、JAから低家賃にしてもらうなど各方面の協力によってサロンとふれあい茶屋などが始まった。

IV-1-7. 笠岡市馬橋のサロン

リーダー変更はなし。参加者10人はすべて女性であり、メンバーは固定化している。開催回数は2カ月に1回、年6回開催。活動内容は季節の行事と茶話会を行っている（聴き取り調査時にはクリスマス会でビンゴゲーム、茶話会、食事を行っていた）。

このサロンがある大井支部は5自治会、そのなか

の小平井の一集落が馬橋である。馬橋の町内会は21世帯、市の山間部にある山を切り開いて造られた地域である。集落ができて40年、小平井の分家が集まった集落に道路ができて開けてきた。大井支部は、地域行事が活発で神社のご神灯、敬老会など年中行事の際には、集落ごとに国道のゴミ拾いや親睦会がある。地域福祉活動ではボランティアグループによる子育てサロンや小学生の登下校の見守り、青バトなども行っている。

- ・原則70歳以上になっているが、ひとり暮らしは60歳から参加することができる。集落なので全員の状況がわかっている。サロンは集落単位で運営していて参加メンバーは、男性がいると話しにくいというため、男性は参加していない。
- ・年4回にする予定だったが、6回にすると助成金がでると社協からのアドバイスがあり、おやつ代がでるならと思い2ヶ月に1回の開催にした。参加費は1回500円、弁当代は安価なものにして残額を積み立て、年末や新年会の品物購入に活用している。
- ・設立の経緯は大井支部で4か所のサロンをしていたが、すべてを担当して持ち回るのは難しくなったことから1か所ごとに集落で行えばと良いと思い、ひとりで今のメンバーに声をかけた。1ヶ月くらいで開設することができた。この集会所は集落の人であれば利用料も要らない。

IV-1-8. 多可町中区坂本サロン

リーダー変更なし。参加者は30人だが、少ない時には10人程度の参加に留まっている。活動内容によって男女の参加比率が変わり、特にグランドゴルフへの男性が多い。開催回数は月に4回、年間48回開催、平日に実施している。活動内容は、基本火曜日にグランドゴルフ、金曜日にいきいき体操をしているが、嚙下体操やボランティアグループの踊り披露、車いすの使用方法などの講習会なども行っている（聴き取り調査時には麻雀ゲームを行っていた）。

このサロンのある多可町の人口は21,928人（7,394世帯）、そのなかの中区坂本には258人（79世帯）²⁾が居住している。町は農村地域であり、酒米の生産

がさかんである。神戸市や西脇市などへの就業者も多い。坂本地区は町内の中心に近く、分家も多い地域である。

- ・参加者には自分の予定（通院、農業など）を優先してもらっている。参加者が少なくても気にしていない。夏休みなど長期休暇時には子どもも参加できる。町内のサロンのリーダーの会に参加して活動内容のアイデアなどの情報交換や必要物品の要望を行っている。

IV-2. 休止に至ったサロン

2014年には活動が行われていたが、2016年休止に至ったサロンについて2014年度の報告書から調査分析を行った。

IV-2-1. Aサロン

リーダー変更なし。登録メンバー11人で男性が多いが、メンバーは少しずつ減少してきていた。年13回開催している。主な活動場所は公民館、他にも保育園、神社、池などで活動してきた。活動内容は桜ロード散策、児童とラジオ体操、子ども太鼓の運行、茶話会、秋の行楽、懇親会などを行っていた。

町の人口は474人（213世帯）、市の南部の住宅地域である。農業地が減少し住宅地、特に集合住宅が増加してきている地域であり、新規住民が増えてきている。拠点は複数のサロンの活動拠点となっており、日程調整をして利用していた。

IV-2-2. Bサロン

リーダー変更なし。登録メンバー15人女性のみ、休止するまで毎年新しいメンバーが入ってきていた。年9回実施していた。活動内容は、花見、温泉、新年会、誕生会、正月用生け花、紅葉見学などを行っていた。

サロンの所在していた地域社会は、市の中心部、住宅地域である。町の人口は836人（442世帯）である。家々は隣接し道路も狭いことから、他の地域からの人口流入はほとんどない。近隣自治会とも非常に隣接していることから複数の自治会で構成されていた。拠点は複数のサロンの活動拠点となっており日程調整をして利用していた。

IV-2-3. Cサロン

リーダー変更なし。登録メンバー12人で女性のみ、メンバーは固定的である。年44回、週1回程度実施している。活動内容は歌、カラオケ、食事会、お茶会などを行っていた。26年の活動報告には体調不良者が4名休会しているとの報告がみられていた。

リーダーの居住町の人口は379人（170世帯）である。市の中心部、住宅地域である。家々は隣接し道路も狭いことから、他の地域住民が入ることは少ない。複数の町、複数の自治会によって活動が行われていた。B、Cは同じ拠点を利用していた。A、B、Cは同じ地区でもある。

IV-2-4. Dサロン

リーダー変更3回あり。登録メンバー63人。年12回。ほぼ同数。毎年新しいメンバーが入ってきていた。活動内容は、防災や介護予防などの出前講座、うどん打ち方講習会、住職講話などを行っていた。地区内の高齢者全員を参加メンバーとしていた。

サロンの所在していた町の人口は、5,972人（2,854

世帯）である。町は農業従事者が多かったが、瀬戸大橋開通によって高松市から海岸沿いの幹線道路が昭和63年以降できたこと、調整地域解除となったことにより住宅が増設され、他地域からの住民が増加してきた。

IV-2-5. Eサロン

リーダー変更2回あり。登録メンバー12人女性のみ、メンバーは少しずつ減少してきている。年20回実施していた。活動内容は氏神清掃、読経、手芸、花見、茶話会、文化祭展示などを行っていた。

IV-2-6. Fサロン

リーダー変更なし。登録メンバー11人で男性1名、女性10名でメンバーは少しずつ減少してきていた。活動回数は年24回実施していた。その内訳は、年16回のサロン活動と8回のベタンクであった。活動内容は、温泉、おしゃべり、クリスマス会、花見、グランドゴルフ、ベタンク、ごきぶりだんごづくり、草掃除、買い物、ボランティアなどを行っていた。活動場所はF地区の公民館ではあるが、活動

表2 休止に至ったサロンの地域類型と設立要件【2014（平成26年）年調査票調べ】

	地域類型	開始年度 【継続期間】	リーダー		地縁関係		拠点
			変更	基盤となる 組織	地域の行事	他の自治会 メンバー	
A	混住地	2004（平成16）年 【10年】	無し	老人会長 （男性）	季節の行事、子どもとの交流、 茶話会、懇親会	なし	公民館（公）
B	混住地	2004（平成16）年 【10年】	無し	不明 （女性）	季節の行事、温泉、誕生会、	あり	公民館（公）
C	混住地	2004（平成16）年 【10年】	無し	不明 （女性）	歌、カラオケ、食事会、お茶会	あり	公民館（公）
D	混住地	2003（平成15）年 【11年】	有り	不明 （男性）	出前講座、うどん講習会、	なし	集会所（自）
E	混住地	2001（平成13）年 【13年】	有り	不明 （女性）	氏神清掃、読経、手芸、花見、 茶話会、地域文化祭	あり	集会場（自）
F	混住地	2004（平成16）年 【10年】	無し	不明 （女性）	温泉、茶話会、季節の行事、ス ポーツ、生活支援、草掃除、ボ ランティア	あり	集会場（自）
G	過疎	2007（平成19）年 【7年】	無し	不明 （女性）	食事会、講話、小物づくり、レ クリエーション	なし	集会所（自）
H	混住地	1999（平成11）年 【15年】	有り	老人会長 （男性）	座談会、温泉、食事、清掃、ベ タンク、花見、講話	あり	集会所（自）

内容の幅広さからグラウンドや地区周辺の高齢者施設も拠点として挙げられていた。

EとFのサロンが所在していた町の人口は3,299人(967世帯)であった。町は農業従事者が多かったが、高松市からの幹線道路が昭和50年以降できたこと、調整地域解除となり住宅が増設されたことにより他地域からの住民が増加してきた。

IV-2-7. Gサロン

リーダー変更なし。登録メンバーは29人で男性12、女性17人であり、毎年新しいメンバーが入ってきていた。活動回数は年10回程度実施している。活動内容は、花見、食事会、講話、小物づくり、日帰り旅行などを行っていた。

サロンが所在していた町の人口は707人(239世帯)であった。高齢者は漁業従事者が多く、若者は市内での就労者が多い。他の地域からの流入はほとんどなく、地縁関係は強い。

自治会内に2サロンあり、この仲間づくり活動(サロン)は子どもが参加しているサロンであった。町内の人口も少なく統合して1サロンで運営することになった。

IV-2-8. Hサロン

リーダー変更4回あり。登録メンバー13人年17回程度、参加メンバーは女性8名、男性5名、メンバーは少しずつ減少してきていた。活動内容は、座談会、温泉、食事、清掃、ペタンク、花見、悪徳商法・交通安全等の講話を行っていた。

サロンが所在していた町の人口は1,060人(340世帯)であった。この地域社会は農業、特に野菜の栽培が主流となっている。農業は大規模農園を営んでおり、伝統的な地域行事はあるが、地域福祉活動はあまり広がりが見られない。地区内にサロンは7か所、この町内にはこのサロン1か所のみであった。他の地域からの流入はほとんどなく、地縁関係は強い。

V. 考察

V-1. 活動が活発なサロンの要因

「地域福祉のあり方検討会報告書」でも示された

ように地域福祉活動を続けていくために拠点となる場所が不可欠である(厚生労働省, 2008)ことから、活発なサロンの地域類型と拠点に着目してみる。ニュータウン地域及び混住地域では、自治会所有の会場を中心に活動しているのに対し、過疎地域では神社、公園、出張所などを活用し、自治会の集会場を主会場として使用していない。このことから過疎地域では、活動内容が地域行事や地域整備など活動内容に応じて活動場所を工夫することができる多様な活動内容があり、拠点となる会場の使用は最小限に抑えられたと推察する。拠点は地域の保有財産があれば安定した活動拠点となるが、多彩な活動を工夫し、他のサロンと共存して運営することにより活動の幅を広げることができる。サロンの活動は1種類の活動に限定せず、複数のプログラムによって構成されたものとなるように、設立や報告の際に指導・助言がある³⁾。地域社会の特性に応じた複数のプログラム構成にすることによって、サロン活動は活発となり継続しているのではないかと考える。過疎地域のサロンである神谷町では神社の清掃やお寺の行事にも参加、王越町ではペタンクを中心としてしめ縄づくりや清掃活動を実施、今治市もしめ縄づくりや季節の野菜等の栽培教室を取り入れ、地域社会の生活に密着したものにしていた。混住地域やニュータウン地域は、活動としてレクリエーションや茶話会を中心に行っていた。今後活動内容は地域行事や伝統行事などを取り入れることで担い手の負担を軽減することができ、参加者も途絶えることはないかと考える。サロン活動は小地域のメンバーで行うことが望ましい(全国社会福祉協議会, 2000)とされているが、過疎地域では小地域メンバー以外も参加者がいた。近隣の集落にサロンが設立できない場合、徒歩圏内で移動が可能であれば、複数の自治会が共同でサロン活動を行うことは意義があると思われる。王越町の活動は幼馴染によるペタンクをサロン活動にした経緯から単一自治会メンバーでは構成されていない。高齢者にとって徒歩圏内で移動できるサロンは、隣接するサロンの会場が近い場合もある。地域の特性や活動設立の経緯によって活動メンバーの参加範囲は柔軟に対応すべきであろう。

サロンの設立は気楽に取り組めるものであるとふ

れあいいききサロンのパンフレットには示されている（全国社会福祉協議会，2000）。しかしながら、担い手となるリーダーの負担は大きく、その力量が問われることも多い（高野ら，2007）。活発な活動を行っているサロンの多くはリーダーが開設当時から継続してサロンを担っており、活動内容を工夫し参加者の働きかけを行うなどその努力は計り知れない。安定した活動が行われれば、リーダーが変更してもサロン活動に大きな影響は起こらないことを示すものとして神谷町の事例がある。このサロンは、自治会役員と氏子当番がその年のサロンのメンバーとなって、神社周辺の環境整備を中心に活動をおこなうという明確なルールがある。これによってリーダーが変更してもサロン運営ができるシステムが構築されている。与島町はサロン立ち上げの際のリーダーが変更し参加者となっていた。関係性が構築されている地域こそそのメンバー変更であると推察する。サロンは自治会や民生委員、婦人会、老人会など地域社会で活躍する高齢者がリーダーとなる場合が多い。彼らは、社会福祉協議会によるサロン設立の働きかけと地域社会の現状からサロンの必要性を感じ、リーダーが中心となり参加メンバーが実践できる活動を活かしたサロンが設立されたと推察する。そしてその活動にはリーダーを中心に協力するスタッフ、メンバーがおり、共通認識をもって活動を支えている。リーダー変更が生じたとしても共通認識を有していればサロン運営を継続することができると考える。サロンを設立するには「世話好きな人、幹事役が得意な人、ボランティアに関心がある人」（全国社会福祉協議会，2000）とあることから、設立の際のリーダーは地域社会の中で役職を担っていた経験があり地域社会の状況を把握できている人が適任であるが、リーダーだけの頑張りとならないことがサロン継続には必要だと思われる。

活動が活発に行われているサロンは、地域社会の実態に応じた活動内容をしてきた。神谷町のサロンは神社周辺の管理とサロンを組み合わせ、地域活動によって地域組織化の再構築を行った事例である。与島町の食事提供を中心としたサロンは高齢者の生活を支える機能がある。西大浜や王越地区はペタンクを中心に地域の清掃や公園整備を加え、地域貢献にもつなげていた。このようにサロン活動は高齢者

の健康維持活動と地域社会の環境整備による地域貢献にもつながることから、高齢者にとっても参加しやすく活動も活発になるのではないかと考える。

活動を評価するスケールとして活動回数を重視することが多い。地域社会の実態に応じた活動を行う場合、活動回数だけに着目することには危険が伴うのではないかと考える。川津町でNPO法人が運営に協力し、常設型のサロンに変更し活動回数を増やした。常設型のサロンはいつでも高齢者がくことのできる居場所づくりとして着目されており、坂出市では川津町以外にも加茂町や府中町など混住地域で増加している形態である⁴⁾。これらのサロンは常設することから、会場費の課題、活動内容の工夫が課題となっている。反対に活動回数を減らしているのは、笠岡市と今治市のサロンである。笠岡市のサロンは21世帯の小地域（集落）で行っているため、誰もが顔なじみであることから2ヶ月に1回の会は茶話会とし、情報交換を主目的においている。今治市では、地域のイベントに呼ばれることも多い。このサロンはふれあい茶屋の運営を週3回開催しているうえ、「まんてん焼き（今川焼）」や寿司などの看板商品を販売するため出かけることから、普段からよく知る地域の仲間とのサロン活動は世間話をゆっくりできる程度であればよいとのことだった。地域社会において高齢者が活躍する場がある場合にはサロンの活動回数をあえて増やす必要はなく、友人との語らいの場、情報交換、安らぎの場としてのサロンを考えることも必要になってくるであろう。地域社会の実態を見ずしてサロン活動の回数で論議することがあってはならない。

V-2. 活動が休止となったサロンの要因

混住地域ではサロンの設立が多い³⁾が、休止になったサロンも混住地が多く、サロンの運営には地域社会の実態に応じた活動内容の工夫が必要であると考えられる。過疎地域のサロン休止の理由は、同一自治会内に活動内容の異なる2サロンがあるため、町人口707人、5自治会という地域社会の実態に照らすと、統合してサロンの基盤を整えることは意義があったと思われる。

休止に至った全てのサロンは継続年数が10年を超えていた。長期継続したにも関わらず、休止に至る

ほとんどの理由はリーダーの高齢化である⁴⁾とのことだった。サロンをいかに継続していくか、長期的な展望を踏まえ、スムーズなリーダー交代と無理のない活動内容が課題であると考え。神谷町のサロン運営はこの地域にとって必要な活動であり、当番制による活動のためリーダーの負担が少ないと推察される。この事例からも地域の行事がサロン活動に組み込まれることは、長期的な継続につながるといえる。

休止したサロンのうち3サロンが公民館を、5サロンが自治会の所有するサロンを拠点として活動していた。単一自治会内に自治会の保有財産としての集会場がなく、地区の公民館を共用して利用しなければならないことから、サロンを含む複数の団体間で会場利用の調整を行わなければならない。それにより活動回数が制限されると推察する。加えて、利用のための申請手続きや施設使用経費が発生するなど活動への負担は大きい。高齢者にとっては、地区の公民館といえども距離的に遠く負担が大きい場合も予測されることから、単一自治会内においてサロン活動が行われることが望ましい。単一自治会内に集会場を有していたにも拘らずサロン休止となった5サロンは、単位自治会の区域が広く、道路の整備によって幹線道路ができたことなどから高齢者の移動が困難となったと推察する。

休止になったサロンは、活動内容が地域行事や伝統行事に関する活動が少なく、レクリエーションや茶話会などの活動が多かった。趣味に特化した活動は、継続年数を経るに従って活動内容と参加者が固定化し、活動が衰退してきたのではないかと考える。サロン活動では福祉問題を身近なテーマとし、講師による介護予防や災害についての講話を聴くことができ、地域社会に情報を提供することができる。講師による講話があることを地域の人に周知することで参加メンバーを集めたり、講話から地域社会の問題へと考える機会にするなど、プラス1の取り組みを目指していくことが必要となるであろう。サロンの地域特性によっては過疎地域では、年中行事や地域行事などの準備をサロンで行う。市街地や混住地域では高齢者と子どもが共に触れ合うサロンとすることで、子どもの居場所、高齢者の活躍の場にもなると考える。

坂出市では現在サロンが102サロンあり、サロンの設立の規模が単一自治会を集めた自治会規模で行われているサロンが多い。宇治市のサロンが53サロン、福知山市60サロン（中村、2009）であることから坂出市のサロンが広く地域社会に浸透し、自治会レベルで拡がりを見せていることがわかる。多くのサロンが設立されていても地域アセスメントを行うと、地域面積差、道幅、交通量など徒歩での移動には困難が付きまとう場合が多い。高齢者にとって単一自治会に1サロンもしくは複数のサロンが運営されれば、閉じこもりがちの高齢者の社会活動の場は広がるであろう。

VI. おわりに

ふれあい・いきいきサロンが継続していくためには、地域社会の実態に応じた活動内容、区域の選定、活動回数、そして拠点となる場所選定が重要である。まずは、地域社会活動に密着したサロン活動が設立されることが望ましい。サロン活動が継続できるよう地域社会の特性に応じ、リーダー、拠点、活動内容を検討して各サロンのシステムを構築していく必要がある。

サロン活動は最小の地域社会内で行われる高齢者の社会参加・社会交流の場である。その活動内容を高齢者自身が決定し実践することは介護予防となり、地域社会の地域組織化活動になる。高齢社会において地域社会の課題を主体的に解決できるのは高齢者自身であり、それこそが健康寿命の延伸につながる。

坂出市、愛媛県今治市、岡山県笠岡市、兵庫県多可町の「ふれあい・いきいきサロン」参加者の皆さま及び各市町社会福祉協議会の皆さまのご協力をいただき、本調査を行うことができました。ここに感謝申し上げます。

本稿は、2015（平成27）年度～2017（平成29）年度 科学研究費基盤研究（C）「高齢者の社会活動と社会関係が健康寿命の延伸に及ぼす影響」（課題番号15K0421）の助成を受けている。

注

- 1) 坂出市では「ふれあい・いきいきサロン」を高年齢者の小地域活動を中心とした活動として「仲間づくり活動」と呼んでいる。その名称が定着していることから、高齢者のインタビューでは発言をそのまま表記することとした。
- 2) 多可町の人口世帯数は平成27年度8月の町統計資料から抜粋。
- 3) 著者の調査分析によるものである。
- 4) 坂出市社会福祉協議会担当者への聞きとり調査結果。

参考文献

- 岡崎昌枝, 2016「地域特性に着目した地域組織化活動の要件～香川県坂出市における『ふれあい・いきいきサロン』活動に着目して～」現代社会研究 Vol19. 京都女子大学現代社会学部.
- 坂出市, 2014, 『平成26年度 坂出市統計書』.
- 島崎義弘, 「住民の力で地域を支える」, 公益法人日本社会福祉士会, 2015, 『社会保障制度改革とソーシャルワーク—躍進するソーシャルワーク活動Ⅱ』, 中央法規.
- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会, 2000, 「あなたもまちもいきいき! 『ふれあい・いきいきサロン』のすすめ～寝たきり・痴呆予防にも～」.
- ゼンリン, 2015, 「ゼンリン住宅地図 香川県坂出市 綾歌郡宇多津町」.
- 高野和良・坂本俊彦・大倉福恵, 2007, 「高齢者の社会参加と住民組織～ふれあい・いきいきサロン活動に着目して～」山口県立大学大学院論集 第8号.
- これからの地域福祉の有り方に関する研究会, 2008, 「地域における『新たな支え合い』を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—」, 全国社会福祉協議会.
- 豊田保, 2009, 「参加者の視点からみた高齢者『ふれあい・いきいきサロン』の意義」新潟医福誌8(2).
- 中村久美, 2009, 「地域コミュニティとしての『ふれあい・いきいきサロン』の評価」, 日本家政学会誌vol60. No.1, 25-37.
- 真継和子・岡本里香・峯森好美・伊藤ちぢ代・岩坂静子・本多容子・山崎裕美子・木村聡子・吉田芳子・星野明子, 2013, 「住民参加と協働によるコミュニティサロンを拠点とする健康づくりへの取り組み—「あいあいサロン」の活動と評価—」, 大阪医科大学看護研究雑誌 第3巻, 168-177.
- 森常人, 2008, 「高齢者を対象とした地域社会での関係の構築と生きがいの形成のための一考察—ふれあい・いきいきサロンと小地域交流サロンによる事例をもとに—」政策科学16-1.
- 森常人, 2014, 「『ふれあい・いきいきサロン』の参加者評価の分析に関する一考察」, 関西外国語大学研究論集 第100号, 257-270.
- 山村靖彦, 2013, 「高齢者『ふれあい・いきいきサロン』の支援の指標に関する研究—ソーシャル・キャピタルに着目した地区の類型化から—」別府短期大学部紀要 第32号, 27-41.
- 玲玲, 2013, 「都市高齢者と社会参加活動—高齢者のふれあい・いきいきサロンを中心に—」九州大学大学院人間共生システム専攻修士論文.

